日中韓北極セミナー「北極域の持続可能な利用について」

一般社団法人　寒地港湾技術研究センター

２０１６年７月５日に北海道大学百年記念会館において、日中韓北極セミナー(North Pacific Arctic Research Community 2016 Meeting in Sapporo ～ Sustainable use of the Arctic ～)を、寒地港湾技術研究センター(CPC)が開催地事務局となり開催した。

日中韓の研究機関からの参加者

本セミナーは、北極海に関する研究をしている日本、中国、韓国の研究機関による北太平洋北極研究コミュニティーが開催しているもので、今回の札幌での開催は韓国・済州島、中国・上海に続いて３回目のセミナーであり、「北極域の持続可能な利用について」をテーマに議論が行われた。

参加した研究機関は、韓国から韓国海洋開発院(KMI)、韓国極地研究所(KOPRI)、ソウル国立大学(SNU)、韓国船舶海洋技術研究所(KRISO)、仁荷工業大学(ITC)、韓国外国語大学校(HUFS)の６組織、中国から上海国際問題研究院(SIIS)、中国極地研究センター(PRIC)、中国水運科学研究院(WTI)、の３組織であった。また、日本からは北海道大学北極域研究センター(ARC)、(一財)国際臨海開発研究センター(OCDI)、(公社)北海道国際交流・協力総合センター(HIECC)の各共催機関をはじめとして、そのほか１０の研究機関、さらに一般市民の方の参加もいただき、全体では５０名を超えるセミナーとなった。

セミナーでは各研究機関の北極域に関する研究及び取組の紹介や、北極域とアジア諸国の関係などについて活発なディスカッションが行われた。

セミナーの概要

セミナーは、開催地事務局である寒地港湾技術研究センターの佐伯浩会長と北太平洋北極コミュニティーの事務局である韓国海洋開発院のSung-Gwi KIM院長の開会挨拶により始まり、その後、第１セッションとして日中韓の代表者による基調講演が行われた。

また、第２セッションは中国からの３人の研究者による発表、第３セッションは韓国からの４人の研究者からの発表、第４セッションでは、日本の３人の研究者による発表が行われた。

最後に、今日のセミナーのまとめや、今後の活動方針などが議論され、第４回目となる次回セミナー（２０１７年）は韓国釜山市で開催することが確認された。

佐伯会長による開会挨拶

基調講演概要

以下には、日中韓の代表者による基調講演の概要について紹介する。

基調講演-１

「韓国における北極政策の動向」

Jong-Deog(Justin) Kim 氏（韓国海洋開発院）

私達は、北極評議会の「北極先住民海域利用マッピングプロジェクト」への参加や、政府による韓国の専門家グループレベルのネットワークを組織し、３ヶ月毎にワークショップを開催して情報共有を図っています。

２０１１年より KMI がホストとなり開催している「北太平洋北極会議（NPAC）」について、今年は８月にハワイ大学で開催し、第２回が１２月にも予定されています。

昨年、「適切な情報を共有し、適切に北極を理解すること」が非常に重要だと感じ、そのため多くの情報を得るために北米地域とも議論を行っています。

政府研究機関でも北極への理解を深めるため、政策、科学、ビジネス、また文化を楽しむことを基本的な考えとした「２０１６年北極パートナーシップウィーク」を設けることに合意しています。

情報システムのサービス開始も主要な目標の一つとし、韓国語バージョンのみになりますが３月から開始し、来年には英語や他の言語での展開を考えています。また、北極圏の大学と協力して、韓国北極アカデミーを設立し、北極圏の学生を招待し知識やビジョンの提供を行っています。

さらに、北極評議会の２０周年のお祝いのための国際セミナーを開催し、進捗状況や今後の活動内容など多くのことを共有しています。

Jong-Deog(Justin) Kim 氏による基調講演

基調講演-２

「北大北極域研究センターが進

める北極研究」深町　康氏（北海道大学北極域研究センター）

北海道大学北極域研究センターは昨年４月に設立され、いくつかの研究グループがあります。一つは大気や水圏研究、地上研究、雪氷研究、などの基本的な応用科学をエンジニアリングした実践的研究、社会科学や人文科学研究、および衛星観測とモデリングした研究グループです。

深町　康氏による基調講演

センターのビジョンとミッションについて、ビジョンは「北極域の持続可能な利用と保全に貢献する」こと、またミッションは「新しい北極科学を確立する能力構築を促進し、問題解決のための革新的な研究を行う」ことです。

昨年１０月に発表された日本の北極政策について、２０１９年までの新しい北極研究プロジェクト「ARCS」について、これらの活動を通じ国内および国際的な共同研究を行う機会、将来の産業や北極のための社会的、文化的研究のアイデアを提供することを考えています。

最後に産学官連携を目的とし、３機関による全国的なネットワークとなる「日本北極圏研究ネットワークセンター（J-ARCネット）」を開始しています。３機関は北海道大学北極圏研究センター、国立極地研究所、JAMSTECがメンバーとなっています。

基調講演-３

「アジア諸国と北極の将来」

Yang Jian 氏（上海国際問題研究院）

これまでの西洋諸国の近代化のパターンを追求する過程でアジア諸国は環境、エコロジー、健康上の工業化の悪影響を経験しています。ただ、日本に続き、シンガポール、韓国、中国、インドのような国は技術・学術研究の大幅な進歩を遂げており、この国々は北極研究において、重要な力となっています。

経済的に日本、韓国、中国は世界でも非常に重要な役割を占めており、我々が協力することは世界的に大きな意味を持っています。より良い北極のための努力は、北極と地球のより良い未来のためになると信じています。そのため、このようなセミナーが開催されることは非常に嬉しく、SIISとしても継続して協力していきます。

Yang Jian 氏による基調講演